

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	急勾配道路への車両進入時におけるリヤオーバーハングと道路の接触
3. 体験した事例の中心的要素	平坦な道路から登り勾配道路に右折進入したところ、リヤオーバーハング部分が道路に接触して、車両が立ち往生した。
4. 体験した事例の原因・理由	道路勾配角度の見誤り 車両乗車全員の車両特性の認識不足 誘導員の未配置

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。 行動の意思決定に問題があった。
------------------	---------------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成22年9月7日 午後4時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：平坦な舗装道路と勾配のある舗装道路
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	交通事故
7. 事例体験時の活動	警防調査 []
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[31]歳、勤続年数[9]年、現場経験年数[3]年、階級[消防士長] 同様の活動 [初めて]、任務 [機関員]
○当事者B	年齢[57]歳、勤続年数[36]年、現場経験年数[6]年、階級[消防司令] 同様の活動 [初めて、過去に1,2回程]、任務 [複数隊の隊長]
○当事者C	年齢[45]歳、勤続年数[27]年、現場経験年数[10]年、階級[消防司令] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [車長]
○その他(当事者が4人以上の場合)	消防士1名(隊員)

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	事故車両	警防調査に出向した	
経過2	A	右折しますが大丈夫でしょうかとCに確認した	現場手前道路上
経過3	C	大丈夫でしょう。と返答する	
経過4	B及び隊員	車両後部左側の接触音確認	
経過5	全員	降車し、現場確認（車両は立ち往生状態）	
経過6	全員	脱出作業開始(当て木、空気式救助器具)	
経過7	全員	脱出作業完了.携帯電話で事故報告	
経過8	事故車両	帰署し、上司に報告	
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 :事故が起きたのはどうしてだと思うか？
- ヒヤリハットの場合:ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	はい

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

「だろろ運転」を排除し、危機意識を持って安全運転に取り組むことの意識徹底

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

敷地内にパイロン等で走行コースを設定し、運転技術の向上、車両誘導技術の向上を図っている。
勾配角度のある道路への進入及び退出時には車両誘導員を配置することを徹底した。
車両前後のオーバーハングを再度確認し、教養を図った。

○指揮・情報伝達の対策について

ヒヤリ・ハット事例図

1 平坦な舗装道路



2 急勾配の舗装道路



3 右折中写真

